

御嵩町の現在



水トラスト ニュース

わがやると投票率57.15%、鴨川丸の
委園愛の店まは大人な。しなしきさあ

言の娘々、殊嫌嫌うお聞くとここの
たんのキマ、大量買ひはな故まの、

なまは心勝量非嫌、実こつていおイサ
し願やま」オは、草の財校おりま

お非常が
おとも同堅す
お人ア、はオ
おまおつたし

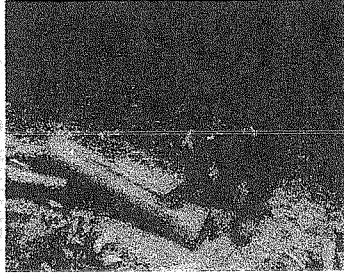
月堂金蘇村買の
お月登棄桑降嫌
お文お書情画ハハりの謝新飛アあり

る感おる史鴨川丸の校、市田林合
おま、お心通嫌、「謝並」ら「懸對」

おま、お心通嫌、「謝並」ら「懸對」

おま、お心通嫌、「謝並」ら「懸對」

おま、お心通嫌、「謝並」ら「懸對」



鴨川丸の現在

contents

鴨川丸の

御嵩町の現在……………1

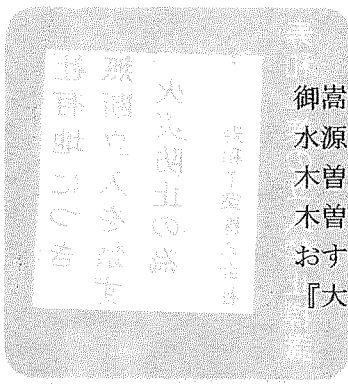
水源の森・みたけから……………2

木曾川・水の旅……………3~4

木曾川流域圏マップをつくろう……………5~6

おすすめの本……………7~8

『大東亜戦争』敗戦二年目の記憶から……………9~10



5月17日小和次



御嵩町の現在

御嵩町長選

小西和子

4月27日、御嵩町長選がありました。

クリーンな町政、「福祉」と「環境」を掲げる現柳川町長に対し、市町村合併を全面に出して出た鍵谷幸男氏、産

廃処分場計画バリバリの推進派であり住民投票条例制定に反対した人物。自

民党金権体質の由緒正しい継承者であり、今まで決して表に出ようとしなかつ

た人で、わたくし的には早く絶滅種になれと切望する種族。この事情を知る

人々は非常な危機感をもって選挙運動に臨みましたが、草の根対なりふり

かまわぬ物量作戦、実にソフトなデザインのチラシ、大量配布から始まって、

虚言の数々、終盤戦では聞くところによると柳川派の選挙事務所では悲痛な

雰囲気にもまれたとか。しかし蓋をあけてみると投票率72・21%、柳川氏6

779、鍵

谷氏422

2票の結果

でありまし

た。バンザ

イ!

柳川氏の

応援演説にははるばる豊島からかけつ

けてくれた石井さんもその話のなかで、

かろうじて県議に再選されたものの、

立ち合い演説をすると、ぐるりと反対

勢力に囲まれたり、演説をききにきた

人の名をメモされたり妨害を受けたと

語っていました。今回の町長選、投票

率も立派なものだったと自慢できるの

ではないでしょうか。それと一地区を

除いては、すべて女性の投票率の方が

多かったですよ。エヘン!

(ここに) かずこ 御嵩町内でフェア

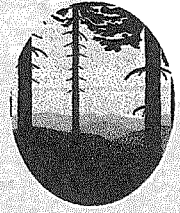
トレードの店を経営)

社有地につき
無断立入を禁ず
火災防止の為

寿和工業株式会社

寿和工業の立入禁止標識

水源の森・みたけから



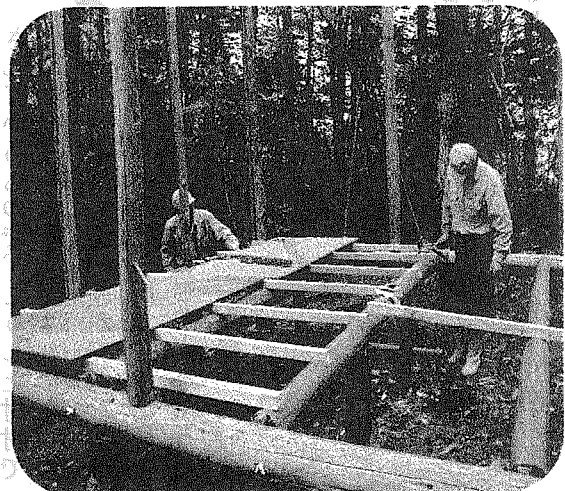
水源の森 「夏の森へいきましよう」

木亦信之

6月ともなると、山は新緑からうっ蒼とした緑の夏の様相へと変わります。小屋づくりも少しばかりすすんできました。床をはり、夏本番までには屋根をつけたいと思っています。その場あわせで常に水平器をあて、なんとか見た目には平らな床ができたようです。ゆっくりと会話を楽しみながらの作業もなかなかいいものですよ。

さて、初夏の森は樹木もいきおいよく枝葉を伸ばし、活動的な季節です。こんな森で森林浴でもいかがでしょうか。森に入ると何かいい気分になることがありますか。それは単に静かな雰囲気とか、緑が美しいとかいうだけでなく、森の中のたくさんの樹木が発散する揮発性活性物質が私たちの体にふれ、私たちを気分よくしてくれるわけです。この揮発性活性物質は、ヒノキにはヒノキの香りや材の色、ホオノキにはホオノキの香りや材の色があるように、樹種によって様々です。とりわけ針葉樹に多く含まれ、材より葉に多く含まれているようです。スギやヒノキの葉をもむと漂う香りがこの揮発性活性物質で、その正体はおもにテルペンと呼ばれる化合物です。ところで私たちによい影響をおよぼしてくれるテルペンですが、地形、天候、季節によって濃度が左右されるようです。地形的には山腹の濃度が高く、天候では晴れた日は濃度が高く、逆に雨が降ると10分の1から50分の1にまで下がってしまいます。季節としては6月から8月が非常に高くなります。それにもう一つ、木に傷をつけると発生する量はさらに高まります。林内ではppbまで上昇するという調査結果があります。製材所は極端な例ですが夏の森にはいり木と向き合って作業をすることは私たちの健康にとって非常に効果的なようです。さあ森へ行きましよう。

(きまた のぶゆき 恵那市在住)





0
0
2
年11月2
日3日水トラ
ストではスタデー
ツアー「木曾川・水の
旅」(Journey of Water
2002)を主催しました。木曾
川上流部のダムや水源林を訪ね、木



2

曾川開発の歴史や人々の暮らしの変遷につ
いて学び、今後の水トラスト運動の課題に
ついて考えるきっかけにしようという
もの。参加者は14名。

大豆畑トラスト生産者と

2日の朝名古屋を

出発したバスは、

飛騨川に沿っ

て国道

41

号線

を北上、

飛騨金山から

さらに和良川・

馬瀬川を遊行正午す

ぎに岩屋ダムに到着。愛

知・岐阜・三重三県と名古屋

市の水がめを見学。その後白川町

を訪ね、流域自給をめざす「大豆畑ト

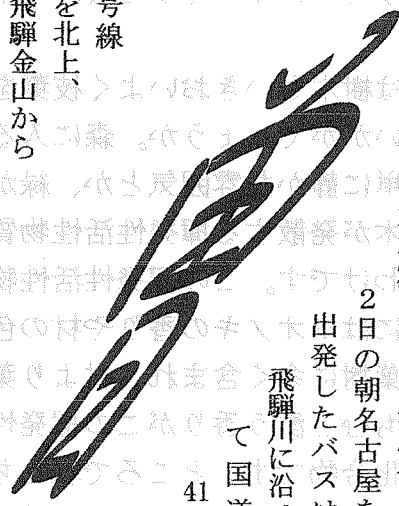
ラスト」の生産者と交流。若者定着をめざ

した地場産業振興、GM(遺伝子組換え)

食品による健康被害・遺伝子汚染の抑止、

アグリビジネスの種子支配からの脱却をめ

ざす運動と位置付け「大豆畑トラスト」運



動に取り組んでいるとのこと。とにかくど

の生産者も強烈な個性の持ち主でありなが

ら消費者ニーズに応え新商品づくりにチャ

レンジする柔軟な発想の持ち主であること

が意外でした(失礼!)。次に、地元産木材

での家づくりで村おこしを始めている加子

母村で明治27年にできた素人歌舞伎の芝居

小屋明治座を見学。広い観客席のスペース

には間柱が一本もなく、極太の梁と巧みな

軸組で屋根を支えていることが興味深い。

芝居小屋は白川町にも同じく明治期に建て

られた東座が現存し、プロ・アマ歌舞伎そ

の他芸能を披露する場として現役で使用

されているもので、こうした村村で

は共同体成員の共同体意識が他

よりも強いか元気な人々

を再生産し村の活性化

を志向するように

もなっている

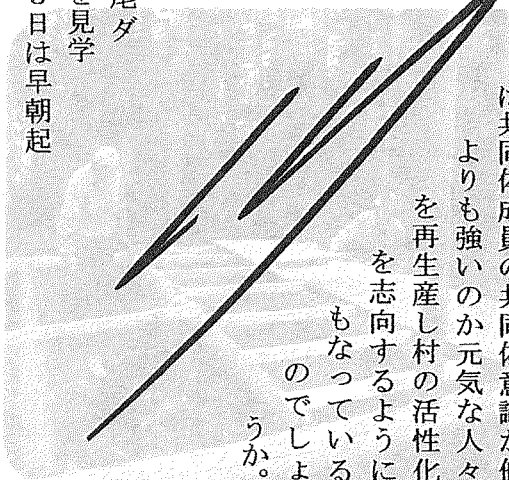
のでしょ

うか。

牧尾ダ

ムを見学

3日は早朝起





御

尾山
牧

尾山の水を集め、
尾ダムは
牧
それぞれ降る中、ダム堤道路からダム湖左岸
にある日進市と木祖村、営林署が提携し
てつくられた分収造林「平成日進の森」

床でみぞれ混じりの
中、牧尾ダム
を見学。

絡んでいる
権が

主要には愛知県東尾張地域と知多半島に
愛知用水を経由して農業・工業・水道用
水を供給し、また、洪水調整と発電を行
う多目的ダム。渇水時には、必ず「愛知
県の水がめピンチ」とかいつて映像が流
されるダム。大正期からここで水利権を
獲得した関西電力が主要な沢筋に発電用
のダムを建設して水をせき止めてしまっ
ており、基本的に牧尾ダムに貯ま
る水は関電のダム放流水
に依存するしかない。渇水に
水利

が
でき
るはずなのに
残念。ツアーの最後
に須原発電所・木曾電力資
料館と南木曾町の桃介橋を訪問。

を遠望する。この森はいわば上下流域交
流のシンボルの存在。木曾川の水の最大
消費地名古屋市でも水源税1
1円を実施すれば広大
な地域の水源林
を守るこ
と
悪化の端緒をみることもできる。
今回のツアーはこれら問題を見つめ
直すいい機会になりました。

(T・K)

木曾川流域圏マップをつくらう

糸土 広

1. 木曾川流域圏をめぐる状況・経過

岐阜県御嵩町に巨大産業廃棄物処分場計画が持ち上がって約10年になります。1995年前町長が大急ぎで処分場計画やむなしの意見書を岐阜県に提出したあとに柳川喜郎さんが初当選。その柳川さんが、本年4月に三選目の当選を果たしました。同じ年に産廃反対の市民運動が始まり、翌年には柳川さんが暴漢に襲われるという事件が発生し、産廃問題に関して全国初の住民投票（1997年）へとつながっていきました。

この一連の経過の中で、私達とりわけ木曾川下流域に住む市民が獲得したのは、上流域を見るまなざしでした。それまで何気なく使い放題にしてきた木曾川の水が全国的に見れば比較的清澈で安全性も高いこと、しかし上流域では過疎や林業不振が深刻な状況となり、その足元を見透かすかのようにゴルフ場開発や産廃処分場などのデイヴェロパーが暗躍していること、そのために水の安全性がおよびやかされつつあることなどに気がつきました。さらには、こうした問題を解決するためには、流域圏という枠組みで考え、行動していく必要があることに気がつきました。流域圏を一つの協同体としてとらえ、上流下流の不公平の是正を流域内での調整で行うべきこと、上

流域で安心して世代交代が出来る社会基盤の確立を下流域が支えるシステムを作り上げる必要があることなどが話し合われました。

御嵩町民が名古屋市民の2倍以上の水道料金を払わされていることにも驚かされました。目の前を流れる木曾川に水利権が無く、はるばる飛騨川から水を買って長い送水管で運んでいるのです。また、丘陵地帯である上之郷地区では町営水道の恩恵を受けられない住民が多数いて、産廃業者が水道敷設をエサにして処分場を認めることを迫っているのです。

その御嵩町民が住民投票で示した決断は、「処分場はNO」でした。飛騨川の水を飲んでいる御嵩町民は、処分場建設による飲み水汚染の影響を受けないにもかかわらず、下流域500万市民の飲み水の安全に配慮して投票したのでした。投票の動機はそれだけではないかもしれませんが、このことが最大の決断理由になつていったという事は、個別訪問の時の反応から考えて間違いないと思います。住民投票の運動期間中に、下流域からたくさん市民、名水芳や全電通などの労働者が御嵩町内に入って個別訪問をしたのです。その時の町民の皆さんの反応は、当初危惧された排外主義的な反応がほとんどなく、下流域からよくぞ来てくれた、いやむしろ遅すぎたぐらいだというのが多かったのです。

住民投票の結果が出た後、今度は下流域住民、市民が奮起しなければならぬはずでし

た。下流域から恒常的に上流域を支援するようなシステムを作りあげる事が課題となりました。すでに横浜市や豊田市などの先進的な自治体では水源基金制度がスタートしていました。日進市や安城市などでは、木曾川上流域（木祖村など）での分収造林に取り組んでいました。上流域側からは、和歌山県本宮町長の提案になる森林交付税制度の設立を求める声が上がられていました。

御嵩町での産廃処分場問題を契機に、名古屋市など下流域住民を中心にして木曾川500万市民の水を守る会が結成され、民間水源基金を募りました。集まった約500万円の浄財で産廃処分場用地にほど近い御嵩町内に1・5ヘクタールの森が購入され、上下流域住民交流と林業体験などを目指して「みだけ・500万人の木曾川水トラスト」水源の森が発足しました。

1999年（11月）には、市民運動の共同企画として木曾川流域圏シンポジウム（於：犬山市）が開催され、犬山市、加子母村、御嵩町、多治見市、日進市の5人の首長がパネリストとして参加し、上下流自治体間の連携、協同、水利権の見直しや調整などについて話し合われました。

同じ頃、遺伝子組み換え作物を拒否する運動として提案されていた「大豆畑トラスト」が、木曾川流域では流域内自給を目指す運動として発足しました。この運動を提案し、中

心的な役割を果たしていた暮らしを耕す会の由利厚子さんを突然の交通事故で失った打撃は大きいものがありました。しかし、運動は由利さんの遺志を無駄にしまいたいという思いも合わさって元気に継続しています。

しかし、全体的に見れば木曾川流域圏をめぐる動きは極めて緩慢と言わざるをえません。御嵩町の住民投票があつた頃の熱気が継続していないのです。外ではアメリカの武力を背景とした一極支配とWTOをテコにしたグローバリゼーションの大波が、地域経済や農工業文化を根こそぎ壊滅に追いやるようになっています。内では大型市町村合併の嵐が吹き荒れ、住民基本台帳ネットや有事立法など地方分権とは名ばかりの実質中央集権の強化へ向かつて小泉政権が暴走しています。こうした状況だからこそ、あらゆる局面でのグローバリゼーションとの対抗をしていく必要がある。その有力な手段として流域圏という枠組みが考え方としても、また行動していく場としても有効なのではないでしょうか。

2. 木曾川流域圏マップ

流域圏という枠組みはまだ漠然としたものに過ぎません。運動の過程で発想されたものですが、全く未熟で実体となるようなものとはなっています。水源の森での活動は、間伐・枝打ち、観察道設置、間伐材による小舎作りなど、それなりに成果を収めています。

大きな渦となつて様々な人々を巻き込んだり発信したりするところまでは行っていない。そこで、水源の森が誕生した頃に提案されて、いまだ形になっていない木曾川流域圏マップづくり運動を再度提案したいと思えます。

木曾川流域に存在する様々な宝物、例えば自然環境、景観、生物種、文化、芸能、技術、地場固有の作物種、ひと、活動、諸機関などを網羅し、流域の価値を再確認し、流域をベースにものを考えていったり、行動していったりする時の道しるべになるようなマップです。問い合わせたり、連絡を取り合ったりしたい時の便利帖のような機能もあると良いでしょう。さらに掘り下げて、流域圏の物質収支（マテリアルフロー）やエネルギー収支、食料やエネルギーの流域内自給などの可能性や目指すべき方向性を提案できるような、あるいは流域がかかえる農林業の衰退や高齢化と過疎問題の現状が明らかにされ、解決の方向性を模索するようなマップが出来ればもつと素晴らしいかもしれません。

マップづくりの主体はどうすれば良いでしょうか。木曾川水トラストだけでは力量的にも広がり的にも無理があるかもしれません。木曾川流域圏研究会（仮称）あるいは木曾川流域圏マップ制作委員会というかたちで多くの人々、市民、農業生産者、有機農産物流通運動や村おこし町おこし運動の実践者、研究者などの参加を得て進める必要がありそうです。

流域圏マップの先進例としては日田市民セミナーによる「筑後川流域マップ」などがあります。今筆者の手元には1998年制作の第3号、2000年制作の第4号の「マップ」があります。A4版の分厚い冊子で、文字通りのイラストマップが別冊としてついています。久留米大学産業経済研究所との共同制作です。また、豊川流域を考える会制作の豊川イラストマップが数年前に発表されました。こちらのほうは絵巻物といった体裁です。

現段階では、木曾川流域に少しでも関心がある人々に働きかけ、共同して作業をしたり、あるいは情報の提供などの協力をお願いするところから始めなければならぬでしょう。どんな内容で、どんな体裁とするかは追々加メンバーと相談しながら決められて行く事でしょう。少し先走ってしまったかもしれませんが、先日エントロピー学会名古屋懇話会の勉強会として、八百津の宮澤農園訪問の会が催された折りに、木曾川流域圏研究会（仮称）の提案を試みました。参加者は決して多くありませんでしたが、良い感触を得ました。木曾川水トラスト内部でも活発なご意見、ご提案、ご批判を寄せていただきたいと思います。

（いとうちひろし 水トラスト事務局）

おすすすめの本

「放浪するアリ」

ベルンハルト・ケーゲル（小山千早訳）

新評論社（3800円＋税）

グアム島の森から鳥が消えた。正確には12種の国産陸棲鳥のうち、伐採を免れた森を好んで棲んでいたのが11種。そのうち9種が絶滅し、生き残った数羽のグアムクイナが隣島のロタ島に避難場所を見つけ、アカシヨウビンが人間の保護檻の中でかろうじて生きています。原因は南太平洋から侵入してきたブラウンツリースネーク。ナミヘビ科最大の属に属するさして目立たない大型のヘビである。夜行性であるため人目につきにくく、アメリカの鳥類病理学者ジュリー・サヴィンジが真犯人であることを突き止めるまで誰にも疑われていなかった。鳥を食い尽くした後、オオトカゲやドブネズミさえもが獲物となり、ついには人間の子供も襲われ始めている。

ブラウンツリースネークは旅好きである。テキサスの軍人家族の洗濯機に潜んで飛行機に乗り、アメリカまで渡ったやつをはじめとして、ハワイや沖縄、サイパンにも上陸を果たしている。レセップスのミグレーションという言葉を知っているだろうか。レセップスは、あのスエズ運河を建設したフランス人である。1859年から10年間かかって完成した160kmの水路は、地中海と紅海という二つの完全に離れた海の間

に動植物達が移動（ミグレーション）する通路を開いたことになる。以来今日まで、紅海から地中海への移動を果たした生物種は約500種、反対に地中海から紅海に移動したのはその10分の1である。この偏りは二つの海の塩分落差や運河の途中にある二つの湖の位置関係、船のスクリューでのかき回しなどによる水の濁りなどによってもたらされたと考えられている。さらにはもう一つの生物移動があつた。数千万年前から何度か起きた氷河期と間氷期の繰り返しのよって二つの海がくっついたり離れたりしてきた。フアラオの時代には今も遺構が残っている運河が建設されていた。これらの時代に地中海産でも紅海産でもない第三の生物群、過酷な塩分変化に耐えることが出来る生物群が誕生し、切り離された湖や川に棲息してきた。これらの生物達もまた、レセップスの水路の完成によって海への移動に成功したのであつた。

カタツムリの歩みはのろい。しかし人間の助けがあれば途方もない距離を簡単に移動してしまふ。アフリカマイマイはレユニオン島（モーリシャス共和国、ジャンポールベルモンド主演「暗くなるまでこの恋を」の舞台となった旧フランス植民地）から太平洋圏に持ち込まれ、やがてはハワイやカリフォルニアにも到達した。おいしいスニープの材料になるのである。ところがこの巨大マイマイは畑の農作物を食い荒らすとんでもない生物であることが判明し、今では賞金付きで駆除が行われているところさえある。

1977年、タヒチ諸島・モーレア島のあるオレンジ農場にアフリカマイマイ駆除のために、アメリカの肉食マイマイ（フロリダ産）であるヤマヒタチオビガイが放たれた。ところがこの肉食マイマイは、アフリカマイマイではなく、進化生物学的に重要な種であるポリネシアマイ（多様な地方種に分化している）を餌として、一年間に1・2kmの速度で島中に広がり、ついにはモーレア島に棲息していた7種のポリネシアマイマイを絶滅させてしまった。生物学的防除の失敗例である。

羅針盤が発明され、ヨーロッパの略奪者達がアフリカ、アメリカ、アジアへと侵入し、ありとあらゆる産品、動植物などをヨーロッパへ持ち込んだ。そのがらくたの山を整理する学問として博物学が発展し、博覧会やデパートが登場した。それら動植物のうち、植物の持ちこまれた正確な時を古文書から割り出すことによって、貴重な研究結果がもたらされた。

植物学者イエルゲン・リンゲンベルグが1994年に行ったハンブルクにおける喬灌木調査結果は興味深い。ハンブルクの住宅地に多く見られる樹木のうち上位20種をみると、国産種が3分の1、旧帰化植物が1種（アンズ）、残り全てが19世紀以降に持ち込まれた新帰化植物であった。注目すべきは、それら帰化植物が持ち込まれた時と自然発生が初めて観察されるようになった時までのタイムラグの長さである。例えば、1878年にゲツチンゲンの植物園で中

国から輸入された2種をもとにつくられたレンギョウの雑種は、1886年にベルリン・ブラデンブルグ園でも栽培されるようになった。この種がはじめて自然発生したことが観察されたのは1974年であり、輸入から88年が経過していた。同様に、トチは124年、トキワサンザシにいたっては217年を要している。なぜそうなのかということについては、いくつかの考察がなされてはいるが確立したものとはなっていない。

これらの調査結果は重要な問題を提起している。すなわち、外来の植物種が新しい生活圏に定着するか否かの判断は、短いタイムスパンでは下せないということである。何百年間も人間の保護下でしか生育しなかった植物が突然に自由な世界に飛び出していった問題となることもあり得るのである。例えば遺伝子組み換え作物が農場を飛び出して自然生態系に侵入していくリスクの評価、あるいは組み換え作物起源の組み換え遺伝子が周囲の雑草に入り込んで組み換え雑草が出現した場合のリスク評価などは、簡単に下せるものではないということである。

遺伝子組み換え生物 (GMO) の危険性についての記述が「外来種モデル」を軸にして展開されているのも興味深い。遺伝子組み換え生物が環境中に出てしまったときに何が起こるか、どんな危険を予想しなければならぬのかについて、組み換え生物 (本書では「トランスジェニックス侵入者」) が外来生物種と同じであると見な

して考察を進めるやり方から導かれる結論、あるいはこの考え方に対する批判に対する再批判がていねいに説得力を持って展開されているのである。

本書では他にも、表題となった「放浪アリ」のこと、地上最大の熱帯湖であるウイクトリア湖に30年前に放りこまれたたつた35匹のナイルパーチが、300種にも分化を上げていた固有魚種シクリッドを絶滅に追いこみ、湖を自らの養殖池としてしまったことなど、多くの生態系混乱事例を紹介している。

生態学者・川那部浩哉 (現琵琶湖博物館長)

らが翻訳して日本で紹介したチャールス・S・エルトン「侵略の生態学 (原題 The Eco Logy of Invasion by Animals and Plants) 」 (思索

社・1971) は、人間が関与して加速された生物種の移動とそれに伴う生態系の攪乱についての再現と言って良い。序文の冒頭にエルトンの「過ちを犯さぬように。私たちは地球の動植物界における史上最大の革命の一つを経験しているのだ。」が提示されている。著者ケーゲルは

先駆的著書としての「侵略の生態学」に敬意を払いつつ本書を書き上げたものと思われる。読者はミステリー小説を読んでいるかのようにリズム良く生態系攪乱事例の謎解きに参加できる。惜しむらくは、ミステリー仕立てが過ぎて、読者によってはやや説得力を削ぎきらいもあるかもしれない。

日本国内に目をやると、スポーツフィッシングの対象として導入されたブラックバスやブルーギルが他の魚種を絶滅させ、その駆除をめぐる論争が起きている。セイタカアワダチソウが乱開発や養蜂業者によって全国に広がっている。

地球温暖化にもなつて、ツマグロヒョウモンチョウなどが北上しているし、マラリア蚊の日本上陸も近いと言われている。新型肺炎 SARS はなぜ今頃流行を始めたのだろうか。人間が攪乱した生態系をめぐる問題は、各地で急激に噴出しつつあるように思われる。それにどうやって立ち向かうべきか、本書ではそうした試みにしてもいくつかの事例を紹介している。

著者ベルンハルト・ケーゲル (Bernhard Kegel) は、ベルリン在住の作家である。生物学の学位を持っていてが研究者ではない。生物学の知識を駆使した小説も発表している。訳者の小山千早さんは、チューリッヒ在住。本書が翻訳書とあっては、訳者の知識が低い状態から翻訳作業が始まったと書かれているが、そうとうな勉強が必要であったものと想像される。とまれ、とても良い本を日本語読者に提供してくれた功績に感謝したい。

木曾川流域圏マップの一分野として、侵略生物図鑑というのがあってもいいかもしれない。

(完)

「大東亞戦争」敗戦二年目の記憶

谷本 常子

いくぶん大ぶりの白いボタン。その二つの穴に、二十纏ほど長さの木綿糸を通し結んでネックレス状にしたものを母が指先につまみ持ち、兄の写真の上につら下げる。畳んだ日章旗も袈裟掛けに、坊主頭。直立不動、十五歳の勇姿が卓袱台の上に居る。

十一歳を頭に四弟妹が周りに集まり、母の持つ糸の先のボタンを固唾飲んで凝視し、ゆっくりゆっくりとボタンは円を描き始めた。「あつ、やつぱりマコちゃん生きてる!」「よかったね。」一斉に歓喜の声をあげ母の表情を読む。緊張の空気がいっぺんに縮むとき。

非科学的と思いながらも、母の精神が切羽詰ったような状態になると、兄の写真の上でボタンが円を描くのを確かめては「命が続いている証」と自己暗示をかけ、しばし安堵の刻を保つこ

とができるのだった。強弱の差こそあれ、ボタンはその都度動いていたと思ふ(さながら泣ける喜劇ではある)。「満州の日本人は全員シベリア抑留らしい。」などの噂は母を苦しめていた。乏しい食生活の中でも毎日陰膳を供えては、「生きていておくれ」「帰って来いよ。」と祈る様に声をかける母の姿は、私達幼い弟妹も合掌して祈るのだった。

昭和二十一年八月十三日

墓参りの為、隣町の叔父の家に家族で集い昼食もほぼ済ませた頃、祖母が「マコは卵かけご飯が大好物だったな!、食べさせてやりたいな!。」と。安否の知れぬ孫を、甥を、子を思い、話題になつていた。私は庭の脇を流れる小川の洗い場で鍋釜を洗う叔母の手伝いをしていた。乗合バスが通つた。と、

すぐ近くのバスの停留所で遊んでいた弟が突然、異様な泣き声をあげて走

てくる、まるでのめる様に。「マコちゃんだ!。マコちゃんだ!。」その時の情景は半世紀あまりを経てもなお、鮮明に脳裏に焼き付けられたままである。

「実(マコト)、只今帰還いたしました」敬礼をして玄関に立ったヨレヨレ男を見て、そこに居る者全て、まるで狐に鼻をつままれた様に。まだ食事の中だった父は、箸と茶わんを持ったまま、裸足で土間に飛び出した。叔父が「足はあるのかい?お盆だからといって、まさかユレイではなからうな?」皆棒を飲んだように立ち尽くし、一瞬時計が止まった。やがて母は兄をしかり掴まえて、その場にへなへたと泣き崩れて終わった。

泣いて笑つて、笑つて泣いて、そんな一刻であった。全員見守る中、兄は井で二杯、卵かけご飯を目をシロク口させ平らげた。

当時、自宅東側にこんもりとした小さな雑木林があった。寒風の残る春の一番に吹き出す黄金色のギジヤの花

(サンシユウ)。好きな花の一つだ。好む。翌日は、雪国ならではの遊び場が
林を二つに分ける様に中央に少しのへ 出来上がっている計算。 親も、星の世界での再会を待っていて
こみがあつて、その空間は格好の憩 父子製作のソリは頑丈無骨。棧俵を くれる事かと。

いの場でもあり、覆いかぶさる形で三 へと、勢いつけて滑り込む。老いて今、
本の山桜が繁っていた。母はそこにゴ 思いつけても愉快、愉快とほほがゆる
ザを敷き、妹に授乳しながら、昔話や んで来る(私は男?)。楽しい子供時
赤い鳥という歌集の童謡を唄って聞か 代を与えてくれた小さな雑木林。今、
せてくれたりした。色彩の美しい挿絵 大阪に住む兄にとつても心に残ってい
が懐かしく恋しい。 る場所ではないだろうか?

また、暑中休暇の頃、一本の大きな 五年ぶりに帰国した兄は、ギターが
栗の木につく純白の毛虫、シラガダイ 旨かった。夜、林の少し小高い処の木
コウを採り、地面に「エイッ」とばか の切り株に腰を掛け、影を慕いて、
り叩きつける。ナンテコト、透明で 湯の町エレジー、酒は泪か溜息か。
ニヨロニヨロとした内臓を、大急ぎで 爪弾く音の物悲しさ、月光に浮かぶ黒
引つ張り伸ばす。とテグスの出来上が いシルエットと共に、私達弟妹の記憶
り。男の子達のよろこぶ釣り糸となつ の内で共に消える事なく停っている。
た。ひどく残酷なことをしたもので、 そんなメロディーを耳にする時、当時
と今は寒寒。 の光景が幻燈のように見えて来る。

冬のソリ遊びは子供達にとつては尤 今昔、ポツンと一軒家の我が家も林
も楽しいものであった。林の両斜面に も消えて、統合中学校の白い箱が冷え
雪を集め、板で叩いて固め、何ヶ所か 冷えと建っている。私達六人兄弟姉妹
にデコボコを作り、夕刻水をかけて置 に、沢山の財産を心に残してくれた両

たまたま先日、Mラジオから、昭
和の歌十年、二十年代を全て聞く事が
出来、遙かに遠く過ぎしモロモロが、
その曲、その歌に乗って思い現れ、こ
のようなタワゴトを記してみました。
誰にでも生きて来た年月分の思い、出、
歴史がありましよう。波乱万丈、紆余
曲折、楽しく心地良い事のみ取捨選択
して。



昭和十六年、国民学校入学、唱歌、童
謡、ムリヤリ軍歌。歌だけでも思い出
の引き出しは溢れそう。古い古いと言
われても、詩の美しい昔の歌を母の教
え給えし歌を、争いはいやデス。
(たにもと つねこ ふるさとの自然を愛す
るスズサイコの会)

木曾川流域圏マップをつくろう

本文中にあるように、流域の情報を掲載した冊子をつくらうということになりました。あまり大風呂敷を広げずにやろうということで、まずは流域で環境保全や地産地消、地域経済活性化、村おこしなどの活動をしている個人・団体の情報を集めたいと思っています。「こんな活動をしている人・団体を知っている」という情報提供や「こんな運動に取り組んでいます」というアピールをお待ちしています。

森の作業今後の予定

伐った木の皮むきは水分の多い夏季に限ります。おもしろいようにヒノキの皮などはむけます。ぜひ、この時期に

森へ来てください。夏の作業で小屋の床と屋根については完成させたいと考えています。秋十月の森開き4周年には小屋開きとなる予定です。ご期待ください。

ホームページ開設

最近事務局メンバーになったIさんのご尽力によりホームページが開設されました。URLは (<http://homepage3.nifty.com/miake/>) です。どんなアクセスしてください。

事務局スタッフ、掲載原稿募集集中!

みただけ・500万人の木曾川水トラストでは、事務局スタッフとニュース掲載原稿を募集しています。

「水トラストニュース」の

編集・発行、会費・寄付金・助成金の管理、NPO事業報告書作成、事業計画策定・具体化など仕事はたくさんあります。事務局会議は不定期ですが名古屋働く人の家で平日夜の7時半ぐらいからの開始です。恵那や御嵩、可児のメンバーもかけつけてくれます。多分に「大風呂敷」の意見・議論が多いのですが、自分の構想や思いをぶつけあつて具体的な企画をねりあげていくのはなかなか充実感があつていいですよ。

ニュース原稿もぜひお寄せください。よろしくお祈ります。



特定非営利活動法人NPO
みただけ・500万人の木曾川水トラスト

〒456-0034

名古屋市熱田区伝馬2-28-14 名古屋働く人の家気付

TEL&FAX 052-682-4737

郵便振替 00800-9-64810

MIYAKE
Wishing Well
Trust